



技能章ガイドブック

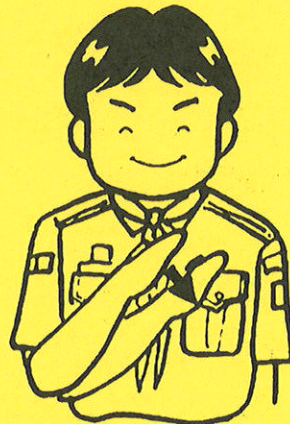
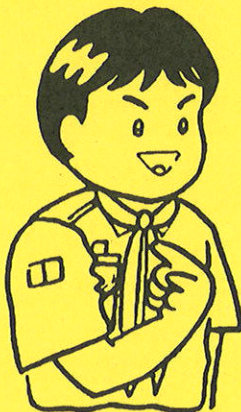
手話章

ボーイスカウト



私 (は)

です



公益財団法人

ボーイスカウト日本連盟

目次	ページ
はじめに	1
1. ハンディキャップとその改善法	2
(1) 聴覚に障害をもつ人(聴覚障害者)とは	2
(2) 聴覚障害者はどんなことに困っているのだろうか	2
(3) どうしたら改善できるかを考えよう	4
2. 体験を通して学ぼう	4
(1) キャップハンディを体験しよう	4
(2) 聴覚に障害をもつ仲間と接してみよう	6
<日本アグーナリーの開催の趣旨と小史>	6
3. 手話ってどんなもの?	7
(1) 手話について	7
(2) 手話の特徴や構造について	8
(3) 手話の歴史 -どこで, どうして, 手話はできたか-	8
(4) 手話表現について	8
(5) 簡単な手話を覚えよう	10
4. 手話で話してみよう	11
(1) 手話によるコミュニケーション	11
(2) 聴覚障害者と手話で会話	11

文明の利器 (P13)

聴覚障害者の補助機器ほしよききについて

5. いよいよ出番	15
身近なところから実践へ	15

—もっと、もっと知り、そして活かそう (P16)—

<ul style="list-style-type: none"> ①音声言語によるコミュニケーション ②文字によるコミュニケーション ③聴覚と視覚の両方に障害をもつ重複^{ちようふく}障害者とのコミュニケーション

6. 私にできる福祉	17
(1)	
(2)	

—やるなら本気で (P17)—

手話講習会や手話サークルへの参加

7. レポートにかかろう	18
おわりに	18
指文字一覧	19
引用 ^{いんよう} および参考 ^{さんこうぶんけん} 文献	20
推薦 ^{すいせん} 図書 ^{としよ}	20
手話 ^{ていご} 章 ^{しょう} 考査 ^{こうさ} 票 ^{ひょう}	21

はじめに

私たちが街を歩いてみると、いろいろな人と会うことができます。一人で黙々と歩いている人もいれば、友人同士で楽しそうに話しながら歩いている人たちもいると思います。家族で仲よく歩いている人たちもいれば、あちこちのショーウインドーを見ながら歩いている人もいます。そして、時には、車イスに乗っている人、目が見えなくてもうどうけん盲導犬やはくじょう白杖を使って歩いている人、手話で話しながら歩いている人たちに会うこともあるでしょう。

もし、あなたがそのような人たちに会ったらどうしますか。珍しそうにジロジロ見ながら通り過ぎますか。それとも知らん顔して通り過ぎますか。自分から近づいていって「何か手伝うことはありませんか。」と、声をかけますか。

今、日本では100人に5人の人たちが目が見えなかったり、耳が聞こえなかったり、あるいは手足が動かなかったり、知能の発達に障害があるといったハンディキャップをもっているといわれています。そして、多くの障害者（ハンディキャップをもった人たち）が私たちの助けを必要としています。

私たち、ボーイスカウトでは、このようなハンディキャップをもち、時には、私たちの助けを必要としている人の中で、今回は特に、聴覚障害に焦点をあてて、聴覚障害者の置かれている立場を理解し、技能としての手話の修得にポイントを置きたいと思います。

スカウトの皆さんが一人でも多くこの手話章が取れるように、ガイドブックをまとめました。特に手話章の一つひとつの細目に合わせて各章が書かれています。皆さんの参考になれば幸いです。

1. ハンディキャップとその改善法

細目①：聴覚障害者が社会生活を営む上で生じるハンディキャップを4つ以上あげ、それを改善する方法について述べること。

※
ハンディキャップ=いろいろな原因で身体や知能の働きに制限があり、そのために、日常生活や学校での勉強・運動・社会での仕事など多くの点で不利な立場に置かれている状態のことをいいます。

(1) 聴覚に障害をもつ人（聴覚障害者）とは

一口に聴覚障害（耳が聞こえない）といっても、その程度によって大きな違いがあります。まったく耳の聞こえない状態を「ろう」といい、少しでも聞こえる（音を感じることができる）状態を「難聴^{なんちょう}」といいます。

難聴^{なんちょう}も聞こえ方によって、軽度・中度・重度に分けられますが、軽度の人には、私たちが聞いている音を、話し声に近い状態で聞いているようです。

ある聴覚に障害をもつ方が、「本当に聴覚障害のことを理解したいのならば、10人の聴覚障害者と一緒に無人島に住んでみてください。」といわれました。本当は、聴覚障害をもっている人たちは、健聴者^{けんちょうしゃ}（耳の聞こえる人たち）と話しをしたいのですが、ほとんどの人は手話がわからないので、自分の気持ちを表現できずに悲しく思っていたり、あきらめていることが多いようです。

(2) 聴覚障害者はどんなことに困っているのだろうか

①家庭生活では

- a. 家族ともスムーズに話しができないので、コミュニケーションがうまくとれないことがある。
- b. テレビを一緒に楽しむことができないので、家庭の中で孤立することがある。
- c. 一人で留守番をしているとき、電話に出たり、来客の対応ができないことがある。

- d. 「お湯が沸いた」「洗濯が終わった」などの音（ブザーや合図）がわからないことがある。
- e. 子どもの泣き声が分からず、いつも赤ちゃんの近くにいないとかならなければならないことがある。

②学校生活では

- a. 友達とのコミュニケーションがスムーズにいかないのに、友達についての情報が入らず、仲間意識が薄くなってくることもある。
- b. 朝礼や授業の内容が分からなかったり、会議や討論に参加できないので、困ることがある。
- c. 校内放送が分からないことがある。
- d. 学級委員や班長などの係になる機会が少なかったりすることがある。

③社会生活では

- a. 病院、銀行、郵便局などで自分の順番がきて名前を呼ばれても、分からないことがある。
- b. 病院、医院で診察を受けても、自分の症状をうまく伝えられなかったり、病気について詳しく説明してもらっても、理解できないことがある。
- c. 電車やバスに乗っているとき、車内放送が聞こえないので、自分で降りたい駅や停留所に注意を払わなければならないことがある。
- d. 駅や空港での出発時間の変更のアナウンスが聞こえないことがある。
- e. 宿泊して、火事などがおきた場合でも、外から連絡が取れず、また、火災報知器の音が聞こえないことがある。
- f. PTA、講演会、町内会、その他の会議や説明会に参加しても、話しの内容が全く分からないことがある。

④その他

- a. 夜や暗い場所で話しができないことがある。
- b. 映画や演劇などを見てもセリフが分かりにくいので、ストーリーが理解できないことがある。
- c. ^{ひつだん}筆談を求めても、面倒くさがつて、話そうとしない人がいる。
- d. 流行語が耳から入らないので、分からないことが多い。
- e. 寝るときは補聴器を外すが、つけているときと同じように、人から話しかけられて困ることがある。
- f. 分からなくても「ウンウン」とうなずくことが多く、分かったと勘違いされてしまうことがある。

(3) どうしたら改善できるかを考えよう

耳の代りに聞くことができる機器ができたり、すべての人が手話がわかるようになるとう良いのですが、少し無理のようなので、一人でも多くの人がか聴覚障害の立場を理解し、少しでも手話を覚えて、彼らの耳の代りとなることが大切だと思いません。

具体的には、家庭や友達同士で話したり、映画や演劇などを見ているときに、その要点を手話や筆談または、ファクシミリなどを利用して相手に伝えるとう良いでしょう。また、聴覚障害をもつ人と話すときは、相手が本当に理解しているかどうかを確認しようとすることうで、意味の取り違いを事前に防げると思えます。

2. 体験を通して学ぼう

細目②：耳栓等を用い、ろう・難聴の状態て1時間勉強する、テレビを見る、家の近くて用事をするなど、日常生活をしておこった問題、その対応などについて体験を報告することう。

(2) 聴覚に障害をもつ仲間と接してみよう

私たち、ボーイスカウトにとって、聴覚障害をもった仲間[※]に会う一番良い機会はジャンボリーやアグーナリーなどの行事に参加することです。特に、アグーナリーは、障害をもつスカウトが多く集まるので、交流のチャンスが多いと思います。その他、近くに障害児スカウト団があれば、交流活動を申し込んでみるのも良いでしょう。このときに大切なことは、相手の耳が聞こえないことを特別なことと考えず、同じスカウト仲間として一緒に活動したり、話したりすることを心がけると良いでしょう。たとえ短い時間の交流でも、いろいろな違いや共通点を見つけることができると思います。

<日本アグーナリーの開催の趣旨と小史>

日本アグーナリーは、障害をもつスカウトが相集い、キャンプ生活を通じて相互の心の触れ合いの中から、自信と勇気に満ちた生活態度を自ら獲得できるよう励ますとともに、これらの青少年がボーイスカウト運動を通じて、進んで社会生活に溶け込めるようにすることを目的としています。

開催年度(数)	開催場所	参加人数
1973年(第1回)	愛知・県立愛知青少年公園	200名
1976年(第2回)	愛知・県立愛知青少年公園	336名
1979年(第3回)	大阪・大阪市長居公園	660名
1983年(第4回)	兵庫・県立嬉野台生涯教育センター	972名
1987年(第5回)	静岡・県立中央青年の家	989名
1991年(第6回)	東京・国立オリンピック記念青少年総合センター	851名
1995年(第7回)	新潟・国立妙高少年自然の家	800名

3. 手話ってどんなもの？

細目③：手話の特徴、構造および表現様式について説明すること。

(1) 手話について

最近、聴覚障害者のために手話通訳のついたニュースがテレビで放送されたり、いろいろな会合に手話通訳者がいたりして、手話を目にする機会が増えてきたように思います。それらの手話を見ても、手や指の動きが早くてとても理解できないものですが、聴覚障害者にとっては大切な情報源です。それは、手話が聴覚障害者にとって、日常使用しているコミュニケーションの手段だからです。

私たちの日常会話でも、自分の気持ちや言いたいことをはっきり相手に伝えるために、話しに合わせて身振り、手振りを加えたり、顔の表情を変えたりしますが、その自然に出てくる身振り、手振り、あるいは顔の表情は、言葉を使わない意志伝達（ノンバーバル・コミュニケーション）といい、ほとんどの場合、視覚を使って行います。

手話は、この視覚を使って行うコミュニケーションを十分活用した、立体的で動きのある言葉です。そのため手話では、表現の位置や順番あるいは指示方向などが大変重要となり、ちょっとした動きの違いで全く違った意味の言葉になったりします。例えば、自分の鼻を指して「わたし」を表し、相手を指して「あなた」表し、別の人間や物を指して「あの人」「この人」「あれ」「これ」といった表現をすることになります。また、「うれしい」「苦しい」「心配する」といった気持ちを表す言葉は胸の位置で表現し、「覚える」「忘れる」「思い出す」といった思考の表現は、頭の位置で行います。

以下、手話の特徴や構造について説明しますが、まだわからない点も多くあると思いますので、自分なりに研究して、意見を発表してみましよう。

(2) 手話の特徴や構造について

「いう」「いわれる」のように、助動詞によって区別される、能動・受動を動きの中で表すことができます。このような立体的表現が大きな特徴といえるでしょう。反面、手話は現在なお、創世期にあるといわれますが、「は、が、に、を」のような助詞がなく、また一つの動きが多くの音声語に対応しています。そのため、その表現が用いられる前後の文脈を理解することが、一つの語を理解する上でも音声語に比べ特に重要です。

(3) 手話の歴史 —どこで、どうして、手話はできたか—

昔の聴覚障害者がどのような生活をしていたか、また、どのようにして周囲の人々とコミュニケーションを行ってきたのか、その記録は残念ながら極めて少ないものです。しかし、何らかの方法（身振り、手振りなど）で、周囲の人々とコミュニケーションをとる必要があったので、現在の手話の原形になるようなものがあったと思われれます。

明治8年、京都の待賢たいけん小学校にろうあ啞児学級、11年には京都府立ろうあいん啞院（ろう啞生31名）ができ、勉強するため集まってきた聴覚障害者は同じ耳の聞こえない仲間を知り、お互いの気持ちを伝えるために使った身振り、手振りが手話になったと思われれます。はじめは物事の形や動きを表すものだったのが、だんだんと抽象的・暗示的手話になっていったようです。

仲間だけで使われていた手話も、講習会やテレビなどを通じて、全国へ広がっていったのは、人間の心の優しさ、いたわりなど、共感性が豊富に備わった言葉だったからではないでしょうか。

(4) 手話表現について

a. 視覚的な話しことば

- ・「得意」の表現は自慢する、あるいは、いばるようになります。

- ・「いつまでも」はずっと永遠のように、見ていれば手話を知らない人でも分かるようにできています。

b. 手話の同時性について

- ・二つ以上のことを一緒にします。
- ・右手と左手、顔と左手、体と右手で二つ以上の意味、表現を一挙^{いっきょ}の動作で表わすことができます。

c. 手話の単位について

- ・親指だけで、「男」「父」「老人」「5」「叱る」「叱られる」などの意味があります。両手の親指を使い、「テスト」「競争」「裁判」「相談」「あいさつ」など、いくつかの動作表現を行うことができます。
- ・漢字から来ているものもあります。

「小学」「中学」「田」「井」「兆」「問題」「予算」など。

- ・「城」と「名古屋」, 「準備」と「片付ける」と「整理」などは、全く同じ手話です。

d. 「手話の話しことば」について

手話は「話しことば」のみで、「書きことば」は、めったに使うことはありませんが、最近ではビデオを使用して、映像的な記録で「書きことば」の代わりにすることが多くなりました。

e. 手話の空間性について

手話はそれを表す位置によって、意味が変化します。

姉が弟の誕生日にプレゼントを贈った。

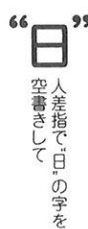
(姉 弟 誕生日 プレゼント 贈った)



姉



弟



誕生日

熊本では



プレゼント



贈った

言葉や文字ではわかりにくいですが、手話では「姉」を自分の右手で表わし、「弟」「誕生日」を左側で表します。「プレゼント」の手話を置き、弟へ向けて「あげた」の手話を移動させるとよく分かります。

手話の場合、空間での会話ですから、このような表現になるのです。

f. 手話の方言について

手話はもともと地方で発生したものと思われ、その地域や仲間同士で使用している独自のものがあります。

g. 手話の法則性について

今まで「手話は文節がなく、文法もない」といわれていましたが、言語の研究が進み、手話はきちんとした文節もあり、法則性もあることが分かってきました。以上のように、手話は五十音によって言葉そのものを表現するのではなく、言葉の持つ意味を表現するものです。

(5) 簡単な手話を覚えよう

「私は、ボーイスカウトです。」

私 (は) ボーイスカウト です

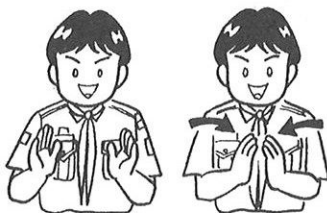


「今日は、集会があります。」

今日 (は)



集会 (が)



あります



4. 手話で話してみよう

細目④：日常の交際または偶然の機会に聴覚障害者と手話で会話し、そのときの状況・話題・感想などを簡単に報告すること。

(1) 手話によるコミュニケーション

手話の表現は、ちょっとした手や指の動きや位置関係、順序や動かす方向の違いによって、まったく違った意味になるので、慣れるまではゆっくりと正確に表現するように心がけましょう。続けていれば、必ず上達し、きれいな手話ができるようになります。（「指文字一覧」参照）

(2) 聴覚障害者と手話で会話

「あなたの兄は、ボーイスカウトですか？」

あなた (の)



兄 (は)



ボーイスカウト



ですか？



「私はボーイスカウト活動をして（始めて）、10年目になりました。」

① 私（は）



② ボーイスカウト



③ 活動をして（始めて）



④ 10年目（に）



⑤ なりました



←過去形

- ③「活動して（始めて）」は、肘^{ひし}を張り、拳を握った両手を胸の前において交互に前後させる。
- ④「10年目」は、左手を筒状にして、その親指を右手の人さし指で軽く叩^{たた}いてから数字10（人さし指を、第二関節から曲げる。他の4本の指は握っておく。）を人さし指で目を示す。
- ⑤「なりました。」は、左手のひらの上に右手のひらを重ねておき、右手を返して、その甲を左手のひらにつける。（現在形の場合の「なります。」は、手のひらを返さない。）

文明の利器

聴覚障害者の補助機器について

A. 補聴器

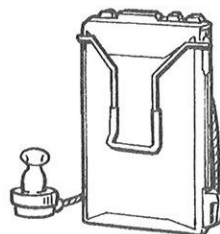
電気で音を大きくして外耳道に直接伝わり聞こえるようになっています。基本構造は、音をキャッチするマイク部分、音を電氣的に大きくする増幅部分、音を出力するイヤホン部分からなっています。

補聴器の種類は、学校などで使う大型補聴器から携帯用補聴器まで様々なものがあります。携帯用補聴器は、一般に胸につける箱型、耳のうしろにかける耳かけ型、眼鏡のつるに組み込まれた眼鏡型、耳の中に入れる挿耳型の4種類がありますが、最近では人工内耳[※]といって手術によって体の中に植え込むものも出てきました。

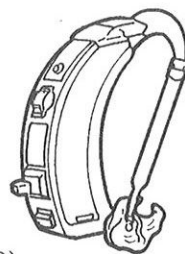
ア. 箱型（図1）・・・箱型のケースの中にマイクロホン、音を大きくする増幅器および電池が収められていて、いろいろな補助装置を組み込めるなどの利点があるが、他の機種に比べて大きく目立つのが難点です。

イ. 耳掛け型（図2）・・・本体を耳のうしろに引っかけた状態で用います。

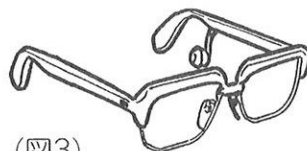
基本構造は箱型と同じですが、極端に軽量化されているために音声出力にやや問題があります。しかし、最近では研究が進み性能も良くなってきており、つけていても目立たないので利用する人が増えてきています。



(図1)



(図2)



(図3)



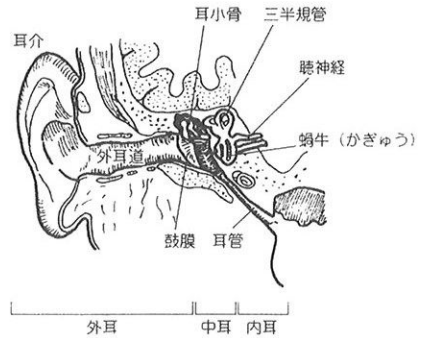
(図4)

ウ. 眼鏡型 (図3) ・ ・ 眼鏡枠と小型補聴

器を一緒に組み合わせて作ったもので、性能も耳掛け型の補聴器と同じです。

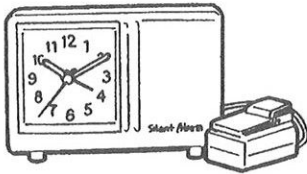
エ. 挿耳型 (図4) ・ ・ 耳の孔に差し込んで

使用します。音声出力がまだ十分ではないので、軽度の難聴者用として使用されています。



※補聴器は、近視や遠視の人の眼鏡と同じように着用すれば、聞こえるというものではありません。鼓膜が破れたなど中耳性の難聴には効果がありますが、内耳の聴神経の疾患には効果の上がりにくい場合があります。

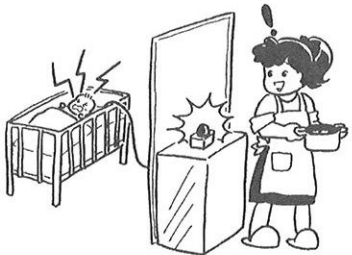
B. 日常生活補助機器



聴覚障害者用目覚まし時計 (図5)

聴覚障害者は、音の情報を十分に受けることができないので、音を光や振動に変換する機器を日常生活の中で用います。

音の代わりに振動器を用いた目覚まし時計 (図5)、赤ちゃんの泣き声を光や振動で知らせるサウンドマスター (図6)、来客をブザーの代わりに回転灯で知らせるパトライトなどがあります。



(図6)

最近では、赤ちゃんの泣き声、玄関のチャイムの音、目覚まし時計、電話の呼び鈴など6種類の音を光や振動に換えて聴覚障害者に知らせる「トータル・アラームシステム」も発売されています。

5. いよいよ出番

細目⑤：手話通訳（口話も含む）にあたっての姿勢（心がまえ）について説明すること。

身近なところから実践へ

よく英語の上達のコツとして「習うより慣れろ」といわれますが、手話も同じです。聴覚障害者と話すとき以外でも、テレビで放送されている手話関係の番組を見ながら練習したり、友達（スカウト仲間）同士でも合言葉のように使って覚えても良いし、手話の本を見ながら練習したり、日常会話の中で「勉強」「働く」「食事」「お風呂」など、身近な単語を少しずつ覚えると良いと思います。

一度に多くの単語を覚えるより、毎日少しずつ使いながら覚えていくと良いでしょう。

もっと、もっと知り、そして活かそう

①音声言語によるコミュニケーション

- a. 読話^{どくわ}＝口の動きを見て話しの内容を理解します。
- b. 読唇^{どくしん}＝一語一語を口やあご、顔をみて理解します。

※簡単な言葉は、読話^{どくわ}、読唇^{どくしん}できるのですが、話し合うときは口を大きく開き、ゆっくり話すのがコツです。真正面に向き合うか、正しい口の開き方をしないと分かりません。

②文字によるコミュニケーション

- a. 筆談^{ひつだん}＝紙に書いてお互いの意志を伝え合います。読話^{どくわ}・読唇^{どくしん}できないときや人名、地名などの難しい字を使うときなどに用います。
- b. 空書^{くうしょ}と掌書^{しょうしょ}＝指で文字を空中にそのまま書く（空書）と分かりやすい。手のひらに書く（掌書）と、より分かりやすくなります。

③聴覚と視覚の両方に障害をもつ重複^{ちゆうふく}障害者とのコミュニケーション

- a. 手のひらに字を書く方法
- b. 点字方式による方法（指点字^{してんじ}）＝左右3本ずつの指で点字タイプを打つ方法で指を動かし伝達する方法です。
- c. 手話方式による方法＝重複^{ちゆうふく}障害者の手や腕を、手話の構成法に従って動かしたり、相手の手話を手で触れたりすることによって、コミュニケーションを行う方法です。
- d. 指文字による方式
指文字を相手の手のひらに当てたり、自分の手のひらにあててもらうことによって、コミュニケーションを行います。

6. 私にできる福祉

細目⑥：聴覚障害者の福祉について、自分が今後なにをしようとしているか考えを示すこと。

(1)

(2)

やるなら本気で

<手話講習会や手話サークルへの参加>

手話を覚える一番早い方法は、手話講習会や手話サークルへ参加することです。聴覚障害をもつ人たちと会う可能性が高く、手話の上手な先生や先輩にいろいろなことを教えてもらえると思います。

ある程度手話を話せるまでには、約3年かかるといわれています。独学（一人で勉強すること）だと、この間に挫折する可能性が大きいですが、手話を学ぶ仲間がいて、お互いに励まし合って学ぶことができるので、ぜひ参加してみてください。

7. レポートにかかろう

さて、ここで今まで学んできたことを少し整理してみましょう。

いろいろなことがあったと思いますが、自分が体験したこと、あるいは、それを通じて感じたことをまとめるためには、まず、紙に書いてみるのが一番良い方法です。

ここでは、レポートの様式は特に設定しないので、自分の体験とその感想を自由に、思う通りに書いてみてください。また、できれば自分の家族やスカウトのリーダー等にレポートを読んでもらい、必要に応じてアドバイスをしてもらいましょう。

今まで学んだことを通して、自分がこれからどんなことを心がけて、どんなことをやっていけるのか、自然に見えてくると思います。また、どのような心構えや態度で聴覚障害をもつ人たちと接していけば良いかもわかってくると思います。

おわりに

手話に取り組んだ人は、よく「手話は難しい」といいます。まったく新しい言葉を一から勉強するので、その通りかもしれません。しかしそのことを通して多くのことを学ぶと思います。なぜなら、手話は聴覚に障害をもつ人たちの心と心を結ぶかけ橋だからです。

聴覚に障害をもつ人々は、本当は私たちと話したいと思っていますが、彼らから私たちに近づいてくることはあまりないので、私たちの方から話しかけて行かなければなりません。手話が少しでも分かると、大変大きな助けとなるでしょう。

一人でも多くのスカウトが、このかけ橋を渡っていくことを願ってやみません。

引用および参考文献

1. 「手話を学ぼう」 中野善達・伊藤雋祐^{しゅんすけ} 著 福村出版
2. 「介護福祉士養成講座^⑭（障害形態別介護技術）」
編集 福祉士養成講座編集委員会 中央法規
3. 「新しい聴覚障害者像を求めて」 (財) 全日本ろうあ連盟出版局
4. 「障害児（者）の生涯と教育（②聴覚障害）」
石戸谷栄一・松井潤一編著 福村出版
5. 「ハンディキャップ・オリエンテーリング」
安藤 忠・原田昭知・森脇賢司 著
松籟社

推薦図書

1. わたしたちの手話（1）～（10）
編集 手話研究委員会
発行 財団法人 全国ろうあ連盟
2. 「百万人の手話教室」①～⑤
著者 丸山 浩 路
ダイナミックセラーズ出版
3. 「イラスト手話辞典」
丸山 浩 路 編
ダイナミックセラーズ出版
4. 「手話法辞典」
発行者 栃木県立聾学校
栃木県ろうあ協会
5. 「手話の表現」
坂本 幸・山家英次郎 共編
発行 仙台ビデオシステム株式会社
6. 「みんなが手話で話した島」
著者 ノーラ・エレン・グロース
訳者 佐野 正 信
発行所 築地書館株式会社
7. 「手話は語る」
米内山 明宏 著
評伝社
8. 「隊長ハンドブック別冊
障害児スカウティングの手引」 財団法人ボーイスカウト日本連盟

学校の図書館または、公立の図書館などへ行って調べてみましょう。

手話考查票

地区	スカウト隊	級	氏名
第 団			

	考 査 細 目	考查方法	考查のポイント	考查合格年月日	認印
1	聴覚障害者が社会生活を営む上で生じるハンディキャップを4つ以上あげ、それを改善する方法について述べること。	□述または記述	ろうの場合と難聴の場合とに分けて考えさせる。		
2	耳栓等を用い、ろう・難聴の状態で1時間勉強する、テレビを見る、家の近くで用事をするなど日常生活をしておこった問題、その対応などについて体験を報告すること。	報告書の提出			
3	手話の特徴、構造および表現様式について説明すること。	□述または記述	実演を加えるようにするとよい。		
4	日常の交際または偶然の機会に聴覚障害者と手話で会話し、そのときの状況、話題、感想などを簡単に報告すること。	報告書の提出			
5	手話通訳（口話も含む）にあたっての姿勢（心がまえ）について説明すること。	□述または記述			
6	聴覚障害者の福祉について、自分が今後なにをしようとしているか考えを示すこと。	記述			

考查細目のすべてに合格したことを証明します。


年 月 日

技能章考查員

印

技能章ガイドブック 手話章 定価300円

平成7年7月20日 <初版>発行
平成22年4月21日 <4刷>発行

発行  公益財団法人 **ボーイスカウト日本連盟**

〒181-0015 東京都三鷹市大沢4-11-10
電話 0422-31-5161(代)
ファクシム 0422-31-5162

印刷 株式会社 博進企画印刷

¥324(税込)



4 931187 665415